

梁川高校では、4月1日から新採用教員が活躍している。R先生である。社会科の先生であるが、正確に教員免許で言うと「地理歴史科」の先生である。同時に「公民科」の教員免許も取得している。専門は世界史である。

まだ一斉臨時休業に入る前に、何時間かR先生の授業を参観した。気づいたことはアドバイスとして本人に伝えた。あの頃、R先生は毎時間、授業を改善するという意識で教壇に立っていたはずである。これからだというときに臨時休業になってしまった。生徒がいないのであるから授業はできない。腕を磨く場がなくなってしまった。

だが、教員が授業力を上げる研修方法として「模擬授業」というものがある。教員が生徒役を務める形で授業を行うのである。当然、実際の生徒の反応とは違うのはやむを得ないが、十分勉強になるし、腕を磨くことはできる。生徒役を務める教員が、〇〇な生徒の役になりきることで、授業者である教員を鍛えることもできる。

先日は、R先生の日本史の授業で模擬授業を行った。生徒役の教員は私を含めて4名だった。授業で扱った内容は、以前私が参観した授業と同じで、学習課題で言うと「黒船の来航によって日本はどのような影響を受けたのか」だった。同じ授業なので、前回との比較ができる。その後の向上の様子や進歩の度合いがつかみやすい。板書の字の大きさや話す際の言葉遣いなどは既に改善されていた。なかなか大したものである。

声の大きさはよい。話すスピードも早すぎると言うことはないが、説明のときと生徒に質問するときの話すスピードが変わらない。その結果、生徒からすると、質問がわかりにくい。実際、生徒役であった私は、理解できない質問がいくつかあった。質問するときには、言葉を切りながらゆっくり話すなどの工夫が必要である。

数字を使った説明があったが、聞いているだけではわかりにくかった。このようなときは黒板を使うという方法もある。黒板に書くだけで理解度は上がる。また、本校の生徒のことを考えて、できるだけわかりやすい言葉を選んで説明しているが、時折、R先生が元々持っている専門性が出てしまい、生徒にとっては難しい言葉が発せられることがあった。ワークシートにも生徒が読めないような言葉が出ていた。漢字にふりがながあるだけでも違う。これらは、今後意識していけば是正されるものと思われる。

R先生からすれば、自分よりも先輩である4人の教員を前にして授業をやるのであるから、かなりのプレッシャーがあったことと思う。加えて私が、ある程度の知識があり、積極的に発言してしまう生徒を演じたために、思うように進めることができず苦労をしたことと思う。実際は、私のように発言する高校生はいないだろう。だが、私の発言は、多くの生徒が抱く疑問を口にしたものである。生徒が何も言わないからといって理解できているわけではない。もし、実際に私のような生徒に質問されたとしても、さらりと簡潔に答えられるだけの専門性を身につけることも今後の大きな課題である。

生徒役を務めた教員の中には、R先生の指導教員であるE先生もいた。今回の模擬授業の発案者である。授業後の反省会の中で、E先生は、それこそさらりと、授業中にR先生が苦しめられた質問に答えてくれた。すごい。さすがである。R先生にも早くE先生のような専門性を身につけてほしい。そのためには、たゆまぬ努力の積み重ねが必要となる。生徒役を務めてくれたお二人の先生からも温かいアドバイスをいただいた。このような先輩教師からの言葉が後輩を育てていく。

歴史好きの私ではあるが、「なるほど」と思うことができる知的におもしろい授業だった。今回もR先生の将来性を十分に感じる事ができた。まもなく学校には生徒たちが戻ってくる。R先生には、この臨時休業中に蓄えたエネルギーを遺憾なく授業にぶつけてほしい。そして、一人一人の生徒から多くのことを学んでほしい。